

花山・芳山地区の保全・利活用の考え方について

1. 花山・芳山地区の沿革

- ・明治時代～：奈良公園の管理・整備費を捻出するために、風致維持や水源涵養上問題のない区域である花山や芳山において、天然林の伐採とスギ・ヒノキの植林が行われ、60年を輪伐期とした皆伐再造林を想定した施業が行われてきた。
- ・大正時代～：春日山の風倒被害地に更新区（地区は花山）が設定され、天然林の伐採とスギ・ヒノキの植林が行われた。
- ・戦後～：昭和36(1961)年の第二室戸台風で芳山や更新区を中心に大規模な風倒被害が発生し、再造林が行われた。また昭和53(1978)年には落雷による森林火災が発生し、再造林が行われた。
- ・昭和55年：奈良公園開設百周年を契機に管理方針を転換し、従来どおり経済林としての運営を求めながら、弱度の間伐を繰り返し、徐々に照葉樹を中心とした広葉樹との混交林に誘導することを目標とした。
- ・平成以降：平成10(1998)年の台風7号により、芳山や更新区で風倒被害が発生し、再造林が行われた。

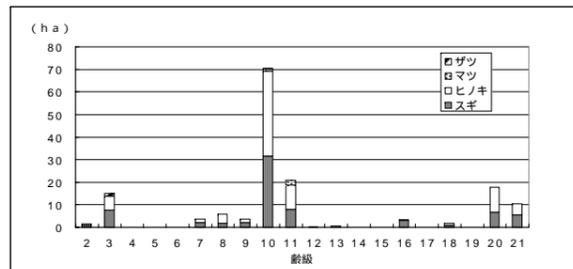
2. 花山・芳山地区の人工林の現況

林種別・樹種別面積及び材積

- ・春日山原始林に含まれる林分を除いた区域の面積（林分の一部が原始林に含まれる林分は含む）は192.72haである。
- ・人工林は156.22haで、ヒノキとスギが約79%（蓄積では約89%）を占める。

人工林の齢級別・樹種別構成

- ・10齢級（46～50年生）【主として第二室戸台風による風倒被害地の再造林】が最も多い。
- ・20齢級（96～100年生）及び21齢級（101～105年生）【明治末期～大正期の植林】、3齢級（11～15年生）【台風7号による風倒被害地の再造林】に小さなピークがある。
- ・林齢構成に偏りが見られる。



出典：同上図

管理状況

- ・未間伐林分はないものの、間伐遅れの林分がある。
- ・風倒被害跡地で更新不良の箇所がある。

施設整備状況

- ・芳山地区には中央部を南北に貫く林道が整備されている。
- ・花山地区では一部がドライブウェイに面しているが、森林管理に必要な施設は整備されていない。

3. 花山・芳山地区の人工林の特質と課題

特質

- ・特別天然記念物である春日山原始林を風倒被害等から守る緩衝帯となっている。
- ・春日山原始林と一体となって奈良公園の風致・景観上の重要な構成要素となっている。
- ・花山を中心に明治末期から大正時代に植林された高齢のスギ・ヒノキ林が成林している。
- ・面的に大きなまとまりをもって人工林が成林しており、一体的な管理の実施が可能である。

課題

- ・健全な森林を育成するために適切な間伐等を実施すること。
- ・スギ・ヒノキ一斉林に比べて風倒被害に強い針広混交林を造成すること。
- ・公園としての風致・景観を高めること。
- ・森林火災の被害拡大を防止すること。
- ・間伐木等、森林資源の有効活用を図ること。
- ・風倒被害跡地等の更新を確実に実施すること。

4. 奈良県における木造建造物文化財修理に関する現状と課題

大径木、檜皮等の修理資材の不足

- ・県内には木造建造物文化財が多数存在するが、檜皮（特に黒皮）や大径木等、修理資材の確保が不安定なため、修理工事に着手できないことが課題となっている。
- ・平成23年度春日大社国指定文化財・著到殿の檜皮屋根葺替工事が檜皮不足により中断されたことを受け、平成24(2012)年2月1日に春日大社と金峯山寺連名で県知事宛に「文化財保全のため大径木育成並に檜皮採取林設定願」が提出された。
- ・原皮師の後継者不足
- ・檜皮採取可能木の減少により、ヒノキ立木から檜皮を採取できる技術を有する採取業者（原皮師）の後継者が育っていない。

5. 檜皮採取実験

経緯：平成23(2011)年度より春日奥山檜皮採取検討委員会（仮称）において、花山・芳山人工林における檜皮採取の進め方について検討が行われてきた。

目的：花山・芳山地区における檜皮産出の可能性を検証することを目的とする。

時期：檜皮採取適期である栄養水分流動の少ない8月から翌年の4月中旬までに実施する。

場所：一定量の檜皮採取が見込まれる花山2 - に林班にある105年生ヒノキ人工林（1.54ha）及び花山2 - へ林班にある101年生ヒノキ人工林（2.51ha）において実施する。

6. 花山・芳山地区の人工林の適正な管理・育成と利活用の考え方

(1) 適切な管理・育成の考え方

春日山原始林の緩衝帯機能及び奈良公園の風致・景観の向上

スギ・ヒノキ大径木と照葉樹を中心とした広葉樹の混交林へと誘導することにより、以下の機能の更なる強化を図る。

春日山原始林を風倒被害等から守る緩衝帯としての機能。

春日山原始林と一体となって奈良公園の風致・景観を高める機能。

木造建造物文化財の修理資材となる高品質大径材の育成

将来の木造建造物文化財の修理資材を確保するために、200～300年生以上の高品質なスギ・ヒノキ大径木を育成する。

保育作業の実施体制の確立

保育作業には高度な技術が必要であることから、人材育成を図るとともに、保育作業を確実に実施できるよう財源を確保する。

(2) 利活用の考え方

文化財修理用の高品質大径材の生産

文化財修理に使用できる大径木にまで成長した段階で、文化財修理用木材として利用する。

檜皮の採取

副産物として檜皮を採取し、文化財修理資材として供給する。

育成過程で生産される森林資源の利用

高品質大径木を育成する過程で抜き伐りにより生産される材を有効活用する。

公園的利用の促進

都市公園奈良公園として、環境教育等のレクリエーション利用を促進するとともに、維持管理に係るボランティアを含む多様な主体の参画を図る。



スギ大径木と広葉樹が混交する森林（春日山原始林内）